

近畿経済産業局管内の経済動向

資料 1

近畿地域の経済は、厳しさが残るものの緩やかに持ち直している。

1. 全体の動向

アジア地域の旺盛な需要により、輸出及び生産は、電子部品・デバイス、鉄鋼、化学等を中心に持ち直しており、個人消費も経済対策により持ち直しの動きが見られる。一方、国内投資は環境関連分野を除き抑制色が強く、雇用は厳しい状況が続くなど、厳しさが残るものの緩やかに持ち直している。

2. 個別の動向

(1) 生産 ～持ち直し～

アジア向け輸出の持ち直しや経済対策による自動車、薄型テレビ等の需要増により、電子部品・デバイス、鉄鋼、化学等を中心に持ち直している。なお、公共工事の足下の急激な落ち込みが厳しいとする声も見受けられた。

(2) 設備投資 ～総じて抑制色が強い～

電池関連等の大型案件の継続や環境関連投資に積極性が見られるものの、新興国の需要増を背景に海外への生産・研究拠点開設の動きが活発化している一方、国内では内需不振による設備過剰感が色濃く、総じて抑制色が強い。

(3) 雇用情勢 ～厳しい状況が続いている～

若年層の失業率(15-24歳 10.0)が全国に比べ高い中、新卒採用は22、23年度ともに抑制傾向。雇用調整助成金等の届出件数は中小企業を中心に高水準で推移。生産に回復がみられるものの、新規求人には結びついていない。

(4) 個人消費 ～持ち直しの動き～

雇用・所得環境の悪化と価格競争の激化から多くの商品・サービスで単価下落が続き、百貨店・スーパー等の販売額は低迷しているが、経済対策により薄型テレビや自動車等が増加するなど、総じて持ち直しの動き。

3. 地域経済のトピックス

- 内需の不振、新興国の需要増等を背景に大企業の海外展開はアジアを中心に拡大。中小企業では、取引先と同調した海外展開も一部に見られるが、多くは、人材、資金等の課題から困難な状況で、受注減少懸念の声が強い。
- 中小企業の年度末の資金繰りは、生産の持ち直しや金融機関の積極的な返済条件の緩和等により、比較的安定した動きとなっている。

